

(様式1)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	1 3	学校名	宇都宮市立峰小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	-----------

平成30年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤に、心身ともに健康で、自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

① 健康でたくましい子【元 気：あいさつ・返事を頑張るいきいき峰っ子】

- ・ 自他を大切にし、明るく元気に生活する児童
- ・ 時と場に応じ、はきはきとあいさつや返事をする児童
- ・ 健康に関心を持ち、規則正しく生活する児童
- ・ 自分の目標を持ち、ねばり強く頑張る児童

② よく考え進んで学ぶ子【やる気：しっかり話が聞けるかしこい峰っ子】

- ・ 確かな学力を身に付け、進んで学習する児童
- ・ 知的好奇心に溢れ、自ら課題に気付き、主体的に解決する児童
- ・ 他の意見を尊重し、自分の考えと比べながら最後までしっかり話を聞く児童
- ・ 自分の考えを持ち、進んで発信する児童

③ 心豊かで思いやりのある子【思いやり：感謝を忘れず、周りの人を大切にするやさしい峰っ子】

- ・ 進んでルールやマナーを守り、誠実に行動する児童
- ・ 互いのよさを認め合い、進んで友達と協力する児童
- ・ 相手を尊重し、正しい言葉遣いができる児童
- ・ 感謝の気持ちを持ち、地域に貢献できる児童

2 学校経営の理念 テーマ 「地域に学ぶ学校づくり」

教育基本法、学校教育法及び同施行規則、学習指導要領、栃木県教育委員会の指導の指針、宇都宮市教育委員会第2次学校教育推進計画、平成30年度指導の重点等に合致した学校経営を目指す。また、本校の教育目標の達成のため、児童の実態や児童の発達段階や特性、地域社会や保護者の願いなどを十分把握するとともに、うつのみや学校マネジメントシステムを十分に生かすことにより、全教育活動を通して心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

- (1) 児童が主役となる活動を意図的に設定し、児童が生き生きと生活する学校をめざす。
- (2) 児童の長所を引き出し、ほめて伸ばす教育を実践し、自己肯定感を高める。
- (3) 陽東地域学校園の教育ビジョンを念頭に、小中一貫教育を生かした教育活動の充実を図る。
- (4) 地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用し、学校教育の充実を図る。
- (5) 重点項目を掲げ、学校・家庭・地域が一体となり重点活動に取り組み、教育目標の実現をめざす。
- (6) 具体的な目標値を設定し、評価者の評価等を踏まえ、具体的な改善策を講じて教育目標の実現をめざす。
- (7) 学校経営の重点目標を学年・学級経営計画や職員の行動規準表に反映させ、組織的な取組により、具体的な目標値の達成をめざす。
- (8) 評価を児童や教職員の意欲及び成果向上の道具(ツール)として生かす。

3 学校経営の方針

(1) 子どもを生かす学校

- ・ 自ら課題をもち、進んで行動できる児童の育成
- ・ 基礎・基本の確実な定着を目指した個に応じたきめ細かな指導の充実
- ・ 学習意欲を高める楽しく分かる授業の実践と家庭学習の充実
- ・ 児童が主役となる場の意図的な設定と、自己の成長を実感できる活動の推進

(2) 組織を生かす学校

- ・ 教育専門職としての資質と能力の向上を目指した校内研修の活性化
- ・ 組織マネジメントの考えに基づき、全教職員協働による教育目標の達成
- ・ 学校業務の標準化を基本に校内業務の明確化、効率化、簡略化による意識的な働き方改革の推進
- ・ ユニット部会を活用した教職員の学校経営への積極的な参画
- ・ 教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌や指導形態の工夫

(3) 地域を生かす学校

- ・ 地域協議会を窓口とした保護者や地域団体等の学校への積極的な参画の推進
- ・ 地域団体との連携と地域資源の積極的な活用の推進
- ・ 外部の学校評価等を活用し、地域住民が来校したくなる開かれた学校・地域とともにある学校の実現
- ・ 地域活動等への積極的な参加の奨励と相互理解の推進
- ・ 地域の教育力を最大限に活用した働き方改革の推進

【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、
心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

- ・ 重点活動【峰小 元気・やる気・思いやり活動】の推進
 - 元 気：あいさつ・返事を頑張るいきいき峰っ子の育成
 - やる 気：しっかり話が聞けるかしこい峰っ子の育成
 - 思いやり：感謝を忘れず、周りの人を大切にするやさしい峰っ子の育成
- ・ 全体で育てたい児童像・・・「自分の夢や目標を実現するために自ら考え進んで行動できる児童」

(2) 学習指導 【やる気】しっかり話が聞けるかしこい峰っ子の育成＝「自ら進んで表現できる児童の育成」

- 基礎・基本の確実な定着を目指した日々の学習とまとめの学習の充実、家庭学習の習慣化
- ・ 「できた」「分かった」が実感できる「分かる授業」の展開
- ・ 学んだことを振り返る活動の充実と振り返りを意識した学習展開の工夫
- 次の学習の準備、返事、チャイムの合図の順守の徹底

(3) 児童生徒指導 【思いやり】感謝を忘れず、周りの人を大切にするやさしい峰っ子

＝「自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成」

- あいさつ運動の推進：各種団体と連携したあいさつ運動の実施
- 読書活動の推進・充実
- ・ ルールやマナーを守る態度の育成：「峰小よい子の一日」「陽東地域学校園児童生徒の目標」に即した指導の徹底
- ・ 自己肯定感を高める声掛けの継続と互いの良さを認めあう場の設定

- ・ 感謝する心や生命や人権を尊重する態度の育成：感謝の会やいじめゼロ集会、人権標語コンクールの実施、道徳の授業の充実
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）【元気】 あいさつ・返事を頑張るいきいき峰っ子
＝「生涯にわたり心身の健康保持増進を図ることができる児童の育成」
- ・ 進んで運動に親しみ、いきいきと生活しようとする態度の育成
：元気っ子チャレンジや各種検定への積極的な参加とミニマムの達成、あいさつ、返事の励行
- ・ 進んで運動に親しみ、いきいきと生活できる環境の充実
：ジャンピングボードやドッジボールコートの設置
- ・ 歯磨き指導（きらきらクラブ）の継続：歯磨きボランティアの活用
- ・ 視力低下を防ぐ「目の体操」「姿勢体操」の指導
- ・ 望ましい生活習慣の育成：「早ね・早起き・朝ごはん」の徹底と食育指導の充実

5 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

6 特色ある学校づくり等に関する取組

- (1) 育てたい資質・能力
 - ① 地域の教育力を有効に活用した学習を展開することにより、地域の良さに気づき、地域の環境や身近な人々に対する思いやりの心を育てる。
 - ② 縦割班の活動を通して、互いの考えを尊重しながら、協力して問題解決に取り組もうとする態度や、主体的に自分の役割を果たそうとする実践力を育てる。
- (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）
 - ◇① 児童会活動や集会活動、縦割班活動等において、児童が主体的に活動し、活躍できる場を意図的に設定し、積極的な公開をすることにより、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。
 - ◇② 地域協議会を窓口し、保護者や地域住民及び各種外部団体の学校教育への支援や参画を推進する。
 - ③ 学校マネジメントシステム等による保護者や地域からの学校評価を生かすと同時に、学校評価者を学校教育活動の最大の応援者、協力者にする。
 - ◇④ 地域の教育資源を有効に活用し、各種交流体験活動を充実させるとともに、宇都宮大学や各種関連機関との連携を強化する。

7 本市の重点施策・事業との関連

- (1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）
 - ①基本的考え
 - ・ 地域の一員であるという自覚を培い、地域に感謝し、地域に貢献しようとする態度を育成するため、地域の行事への積極的な参加を促す。
 - ・ 地域に潜在する教育資源を生かすために各種団体との連携を図る。
 - ②主な取組
 - ・ 地域協議会や地域、宇都宮大学などの行事を通して、地域住民との交流を図る。
 - ・ 地域住民との交流により、地域の行事への積極的な参加を促す。
 - ・ 地域教材を扱った授業内容を充実させ、児童の地域への関心を高める。

- ・ シニア世代の学校支援者の姿に保護者がよい刺激を受けることで、PTA活動への協力を促す。
- ・ 「あいさつ運動」の実施や日常のあいさつの奨励により、児童と地域住民との交流を深める。
- ・ 地域のボランティア活動を推進し、学校支援の仕組みを構築する。
- ・ 峰小「おやじの会」との連携により、学校行事への父親の積極的な参加を促す。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

- ・ 児童生徒が安心して学校に通学できる環境を整備するため、小中学校の教職員の交流活動を積極的に推進する。
- ・ 健康・安全教育、食育の推進と心の教育の充実を図るため、地域学校園内の教職員による協働の場の設定や活動内容の工夫を図る。

②主な取組

- ・ 中学校の教員が小学校を訪れ、交流授業や中学校の話をするすることで、中学校進学に対する児童の不安軽減を図る。
- ・ 小学校の教員が中学校を訪れ、積極的な情報交換をすることで同歩調での児童生徒の健全な成長を目指す。
- ・ 多くの教員が交流授業に参加できるようにすることで、小中協働の意識を高める。
- ・ 登校指導を同一日に実施し、児童生徒の生活規範の定着と安全指導の充実を図る。
- ・ 特別支援学級の交流を積極的に行い、小中学校の特別支援教育における連携を強化する。
- ・ 「地域学校園の約束」を各学校で定着させ、陽東地域への所属感を高める。
- ・ 学校園統一献立や共通「お弁当の日」を実施し、家庭での食に関する話題づくりのきっかけにする。
- ・ 学校園で学校保健委員会や学校給食委員会を実施することにより、実態把握に努めるとともに、歯や口、目に関する健康教育を推進する。
- ・ 地域学校園の各学校のおすすめ本を紹介し、読書の幅を広げるとともに質の向上を目指す。

(3) 不登校対策

①基本的考え

- ・ 児童との信頼関係を築き、安心して過ごせる居場所づくり、魅力ある学級づくりを推進する。
- ・ 新たな不登校を生まないために不登校の早期発見・早期対応に努める。

②主な取組

- ・ Q-Uの結果を分析し活用するとともに、良好な人間関係作りに役立つエクササイズやトレーニングを日常的に実践する。
- ・ 児童の自己肯定感を高めるために、児童が主体的に活動する場や活躍できる場を意図的に設定する。
- ・ 日々の授業において、「できた」「分かった」が実感できる「分かる授業」の実践に努める。
- ・ 一緒に活動する中で集団の中での子ども同士の関係の把握に努めるとともに、常に受容的な態度で児童に寄り添い、積極的に児童の話に耳を傾け、児童と教師との信頼関係の構築に努める。
- ・ 職員会議や朝の打ち合わせを活用し、児童の状況について教職員間の共通理解を図るとともに、新たな不登校を生まないために「1日休んだら電話連絡 2日続けて休んだら家庭訪問」を徹底する。
- ・ 欠席状況共有シートを活用し欠席状況を把握するとともに、校内の教育支援委員会等を活用し、組織で不登校に対応する。